

西光寺だより

第四十六号 平成二五年 六月一日発行

本願寺阿弥陀堂（附・渡廊下、附・喚鐘廊下）

ならびに 御影堂 国宝に

真宗本山の象徴として

国の文化審議会は五月十六日、「本願寺阿弥陀堂」と「本願寺御影堂」を国宝として新規指定、「旧真宗信徒生命保険株式会社本館（本願寺伝道院）」を重要文化財（建造物）の新規指定、「本願寺」として建築群（阿弥陀堂門、御影堂門、経蔵（附・棟札）、鼓楼（ころろ）、手水所（ちようずしよ）、総門（附・築地塀、附・御成門（おなりもん）、附・目隠塀）を重要文化財の追加指定とすることを文部科学大臣に答申した。この結果、官報告示を経て国宝、重文に指定されることになる。

阿弥陀如来像をご安置する阿弥陀堂は、宝暦十（1760）年に再建された。旧堂に比べてはるかに大規模な阿弥陀堂の建立で、御影堂との壮大な両堂を並立する本願寺の構えが完成。渡廊下を介して両堂をご門徒が参拝する信仰形態が出来上がり、近世を通して篤い信仰を受け続け、五十年ごとの大遠忌のたびに伽藍を發展させてきた真宗寺院の様態をよく表していることなどが評価され、江戸時代後期における大規模真宗本堂の完成形として国宝に指定される。

また、御真影（ごしんねい）（親鸞聖人像）をご安置する御影堂は寛永十三（1636）年に上棟。桁行62.1m、梁間48.3mで、江戸時代の建築として現存最大級の規模を誇る。小規模な道場から出発し、広大な仏堂に到達した真宗本堂形式の頂点として位置づけられる建築。ご門徒により支えられ、社会に絶大な影響を及ぼした真宗本



阿弥陀堂と御影堂



阿弥陀堂と御影堂を結ぶ渡廊下

山の象徴として、文化史的に大きな意義があるとして評価された。さらに、「本願寺」の建築群は、規模雄大で質が高く、それぞれ各時代の優れた意匠と技術が結集されており、既指定の「鐘楼」とともに保存を図るため追加指定された。

また、本山前に明治四十四（1911）年に建てられた「旧真宗信徒生命保険株式会社本館」（本願寺伝道院）は、アジアの建築様式を取り混ぜた煉瓦造建築として、高く評価された。

【本願寺新報より】

*【古都京都の文化財】の一部、西本願寺は世界遺産として登録されています。



本願寺伝道院

◆六・七月の行事◆

・六月 十日（火）～十一日（水）

茨木東組聖跡巡拝旅行

『法然聖人ゆかりの地参拝としまなみ海道』

・六月 十七日（火）

茨木東組第六期連続研修会 第四回

午後二時～四時

西光寺本堂

●今月のことば●

功祚成満足

修業の功あつて悟りを開き、

威曜朗十方

仏の位に到達する事が出来たならば、

日月輯重暉

その輝く光は十方の国土を明るく照らし、

天光隱不現

太陽も月もそれぞれの光をなくし、天空の光も隠れて見えなくなってしまうでしょう。

為衆開法藏

人々の為に教えの蔵の扉を開き、

広施功德宝

その中の宝にも、例えられる功德を広く施し、

常於大衆中

常に人々の中にあつて

説法師子吼

獅子が百獣に向かって威力を示すように高らかに教えを説きます。

供養一切仏

具足衆徳本

全ての仏さまに供養して、悟りを開くため、善心をそなえ、

願慧悉成満

誓願とそれによって達成された仏さまの智慧をことごとく満たし、

得為三界雄

全世界の雄者となりましょう。

如仏無碍智

仏さまの何ものにも妨げられない智慧の光が

通達靡不照

すべてに行き渡って照らすように、

願我功慧力 等此最勝尊

仏の智慧の力も、この最もすぐれた仏さまに等しくありたいと願います。

斯願若剋果

大千応感動

もしこの誓願が実現されたならば、全世界は感動し、

虚空諸天人 当雨珍妙華

天空に舞う天人たちが美しい花を雨のように降らせることでしょう。

南無阿彌陀仏 阿彌陀仏にまかせよ、必ず救う。

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

南無阿彌陀仏

願似此功德

願わくは、この尊い功德をもつて

同発菩提心

もろともに信心をおこして

平等施一切

すべてのものに与え

往生安樂国

安樂国に往生しよう。

以上が重誓偈の説明でございました。これまで『讚仏偈』、『重誓偈』について解説させていただきました。日頃からお逮夜参りなどで拝読することがあるので、参考にして頂けたらと思います。

まとめとしまして、この二つは『大無量寿経』上巻の中にある讚歌であります。

阿彌陀仏が法蔵菩薩の時、師仏である世自在王仏のもとで本願をおこされ、その気高い姿を仰ぎ、御徳をたたえ、師仏に向かって信念と願いを述べたのが『讚仏偈』(さんだんのうた)であります。その『讚仏偈』を法蔵菩薩が世自在王仏の前で表白され、ついで四十八願の誓いをたてられたのち、重ねてその四十八願の要旨を十一偈の歌詞として述べられたのが『重誓偈』(ちかいのうた)であります。

ともに、この二つの讚歌は、昭和二十三年蓮如上人四百五十回御遠忌を記念し、本願寺において謹譯(きんやく)されたものであります。

◆先月の報告◆

①五月七日(水) 仏教婦人会・寺族婦人会、合同の一日研修旅行がありました。参加者は四〇名で、西光寺からは五名参加させていただきました。有意義な一日を過ごさせていただきました。

丹波方面で東井義雄記念館、そしてちょうど見ごろの白毫寺の九尺ふじは圧巻で素晴らしかったです。東井先生の僧侶として教育者としての生き方に思いを寄せる一日でありました。

参加下さった皆様本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でございました。

②五月九日(金) 西光寺本堂にて平成二十六年西光寺講総会が行われました。平成二十五年年度の会計報告をさせて頂き、行事報告・役員改正など二十六年度に向けて話し合われました。

今回はみのり講について話し合いがあり輪番制によって役をしていただく事となりました。それは大谷本廟墓参の際に、皆様から集金をして、ペットボトルに水を入れ、花を用意していただく事でございます。もちろんみのり講の事ですので、皆様とともに協力をしながら役をしていただきたいと思いますので宜しくお願い致します。

役は二年で交代となります。今年の墓参で輪番表を配布予定。

③五月三十日(金) 平成二十六年茨木東組総代会総会が勝光寺にて行われました。茨木東組十八カ寺の総代様が集まり、平成二十五年行事報告、会計報告を行い、今年度の行事計画について話し合いがありました。その後、研修会として佐々木義英師より『本願について』と題しまして法話をいただきました。総代の皆様ご苦労さまでございました。

合 掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>